

# まちの家計簿

▶問い合わせ 財政係 (☎223 - 3578)

## 令和5年度一般会計決算

**歳入** 101 億 6099 万円

**歳出** 97 億 4352 万円

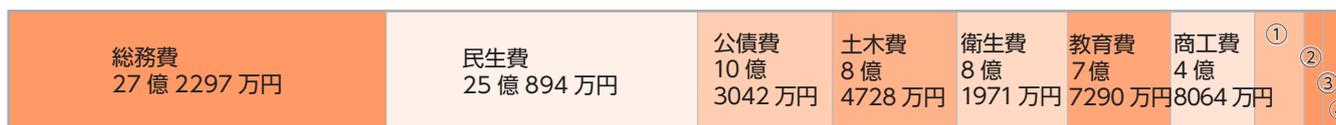
### 歳入



【自主財源内、その他の内訳】 諸収入 12 億 4213 万円 (うち、モーターボート競走事業収入 10 億 4000 万円)、繰越金 1 億 2166 万円、寄付金 4733 万円、分担金・負担金 3879 万円、財産収入 3862 万円

【依存財源内、その他の内訳】 地方譲与税 3485 万円、法人事業税交付金 2527 万円、地方特例交付金 1101 万円、株式等譲渡所得割交付金 992 万円、配当割交付金 803 万円、環境性能割交付金 646 万円、利子割交付金 39 万円

### 歳出



①消防費 2 億 4864 万円、②諸支出金 1 億 945 万円  
③議会費 1 億 215 万円、④農林水産業費 1 億 42 万円

#### 【令和5年度一般会計の歳入歳出決算の概要】

令和5年度の一般会計の決算額は歳入歳出ともに増加し、歳入総額は4億5619万円増加の101億6099万円、歳出総額は4億6853万円増加の97億4352万円になりました。

#### ■歳入決算額の構成

歳入額を財源別にみると、町税や使用料・手数料などの自主財源が総額の40.8%、地方交付税や国庫支出金などの依存財源が59.2%です。

#### ■歳入の主な増減

芦屋釜の里収蔵展示施設改修事業費の増加などにより、町債が4億4457万円増加し、新型コロナウイルスワクチン接種などの新型コロナウイルス感染症関連補助金の減少により、国庫支出金が1億2403万円減少し、繰入金が2億3086万円増加しました。

#### 【用語の説明】

##### ●自主財源

町が自主的に収入できる財源

##### ●依存財源

国や県の基準により交付され、自主的に収入できない財源

##### ●地方交付税

全ての地方公共団体が一定水準の行政サービスを提供できるよう、国から配分されるお金

##### ●町債

町が国や銀行から借り入れるお金

# 令和5年度の主な事業

第6次総合振興計画前期基本計画に基づき、  
取り組んだ内容を紹介します。

## 1 住民とともに進めるまちづくり

- 自治区活性化事業交付金 700万円
- ボランティア活動センター運営事業 387万円



自治区活性化事業（第二緑ヶ丘夏まつり）

## 2 安全で安心して暮らせるまちづくり

- 町有地のりめんほうらく法面崩落対策工事（城山公園横）6837万円
- 老朽危険家屋等解体補助金 1121万円
- 消費者生活相談事業 504万円
- 防犯カメラ設置補助金 42万円
- 高齢者運転免許証返納者支援事業 39万円



町有地法面崩落対策工事



消費者生活相談

## 3 子どもがのびのびと育つまちづくり

- 小中学校情報機器（ICT）活用事業 6530万円
- 子ども医療費助成金 6254万円
- 学校給食費負担軽減事業 1945万円
- 小中一貫教育事業 1691万円
- 小中学校・高校生等通学費補助金 919万円
- 出産祝金 515万円
- 新婚・子育て世帯  
民間賃貸住宅家賃補助金 326万円



ICTを使った授業風景



出産祝金

## 4 いきいきと暮らせる笑顔のまちづくり

●総合体育館スロープ屋根等設置事業	2760万円
●老人憩の家運営事業	2554万円
●巡回バス運行事業	1985万円
●中央公民館スロープ屋根設置事業	1111万円



総合体育館スロープ屋根等設置



巡回バス

## 5 活力ある産業を育むまちづくり

●芦屋港活性化推進事業	5655万円
●あしや砂像展実行委員会補助金	3365万円
●あしや花火大会実行委員会補助金	1850万円
●創業促進支援事業補助金	1667万円
● <sup>あわや</sup> 栗屋地区農道側溝改良事業	841万円
●空き店舗等活用事業補助金	272万円
●特産品開発支援事業補助金	227万円



あしや砂像展



あしや花火大会

## 6 環境にやさしく、快適なまちづくり

●タウンバス運行事業	7072万円
●タウンバス購入事業	2387万円
●定住促進奨励金	753万円
●緑ヶ丘団地整備事業	743万円



タウンバス

## 7 心豊かな人が育つまちづくり

●芦屋釜の里運営事業	2547万円
●図書館運営事業	2227万円



芦屋釜の里

健全化判断比率

健全化判断比率

健全化判断比率のうち、1つでも早期健全化基準以上になった場合は「財政健全化計画」を定める必要がありますが、いずれの比率も基準を下回っており、町の財政は健全な状態にあると言えます（比率がマイナスの場合は「-」で表示）。

	令和5年度	令和4年度	増減	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	-	-	15%	20%
連結実質赤字比率	-	-	-	20%	30%
実質公債費比率	5.7%	0.1%	5.6%	25%	35%
将来負担比率	-	-	-	350%	

基金（貯金）

基金残高は約49億円

町の貯金である基金は、財源不足への対応や特定の事業を実施するために積み立てているものです。

令和5年度は、物価高騰に対応するため町独自事業を実施し、多額の財政調整基金を取り崩しましたが、今後も不測の事態に対応できる体制を整えるため、モーターボート競走事業会計からの繰入金を増額したことから、全体としてほぼ横ばいになりました。

区分	令和5年度	令和4年度	対前年度増減
財政調整のための基金	14億9789万円	14億7672万円	2117万円
その他特定目的基金	33億9632万円	34億1345万円	▲1713万円
合計	48億9421万円	48億9017万円	404万円

町債（借金）

町債残高は約87億円

実際の町の負担は約18億円

町債とは町の借金のことですが、一般的な借金とは違い「交付税措置（※1）」という助成ルールがあります。

令和5年度の町債残高を見ると、約68%は普通交付税で措置されており、一般財源（※2）で返済するのは約21%で、額にすると約18億円です。令和5年度は芦屋釜の里収蔵展示施設改修事業などのため町債を借り入れ、残高が増加しました。

	令和5年度	令和4年度	対前年度増減
町債残高	86億8120万円	86億4494万円	3626万円
交付税措置額	59億3781万円	59億1180万円	2601万円
その他	9億3540万円	10億7855万円	▲1億4315万円
一般財源	18億799万円	16億5459万円	1億5340万円

（※1）交付税措置とは、町債の返済額を国が普通交付税という形で助成するもので、措置される率は内容によっておおむね30～100%です。

（※2）一般財源とは、町税など町が自らの裁量で使用できる財源です。

